

再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課
担当課長名：本田 武志

事業名	連続立体交差事業 東武鉄道伊勢崎線・野田線（春日部駅付近）		事業区分	連続立体交差	事業主体	埼玉県	
起終点	<伊勢崎線> 自：埼玉県春日部市南一丁目 至：春日部市粕壁四丁目 <野田線> 自：埼玉県春日部市粕壁 至：春日部市南一丁目			延長	約 3.5km		
事業概要	当該事業は、東武鉄道伊勢崎線・野田線の春日部駅付近の約 3.5km において鉄道を高架化することにより、10箇所踏切（うち開かず踏切3箇所、自動車ボトルネック踏切1箇所）を除却し、都市交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。						
R1年度事業化	H30年度都市計画決定	R2年度用地着手	R2年度工事着手				
全体事業費	約 650 億円		事業進捗率	1%		供用済延長	0km
踏切交通遮断量	55,076 台/日（野田線第 87 号踏切）						
費用対効果分析結果	B/C	総費用	(残事業)/事業全体	総便益	(残事業)/事業全体	基準年	
	(事業全体)	393/398 億円		537/537 億円		令和元年	
	1.4	事業費：393/398 億円		移動時間短縮便益：453/453 億円			
	(残事業)	維持管理費：0/0 億円		走行経費減少便益：61/61 億円			
	1.4			交通事故減少便益：23/23 億円			
感度分析の結果	(事業全体) 交通量：B/C=1.2~1.5(交通量 ±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.2~1.5(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.2~1.5(事業費 ±10%) 事業費：B/C=1.2~1.5(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.2~1.5(事業期間 ±20%) 事業期間：B/C=1.2~1.5(事業期間 ±20%)						
事業の効果等	当該事業により、交通渋滞、踏切事故を解消するとともに、分断された中心市街地の一体化を図るなど、地域の生活や経済活動の発展に寄与する。						
関係する地方公共団体等の意見	春日部都市計画区域の整備、開発及び保全の方針や春日部都市計画マスタープランに連続立体交差事業が位置づけられているとともに、地元商工会議所などで構成された春日部駅付近連続立体交差事業促進期成同盟会（会長：春日部市長）より早期事業着手の要望を受けている。						
事業評価監視委員会の意見	令和元年度埼玉県公共事業評価監視委員会にて再評価を実施し、事業継続が了承される。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	東武鉄道野田線の急行運転が開始されたことにより交通利便性が高まった。						
事業の進捗状況、残事業の内容等	令和元年度に事業認可を取得し、東武鉄道との施行協定を締結した。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	令和2年度から用地買収を集中的に進めていく。						
施設の構造や工法の変更等	・施工方法の比較検討により事業費が最小となる工法とした。						
対応方針							
対応方針決定の理由	当該事業により、交通渋滞、踏切事故を解消するとともに、分断された中心市街地の一体化を図るなど、地域の生活や経済活動の発展に寄与するなど、高い投資効果が見込まれる。このため、引き続き早期完成に向けて事業を推進する必要がある。						
事業概要図							

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。